

冬のチョーチンの セット釣り

へ ら エ サ マ ニ ュ ア ル

徹 底 解 析

No.3

 マルキュー

冬のチョーチンのセット釣り

へら鮒は、天候や気温の変化に敏感に反応する魚。ですので、水温が下がった管理釣り場では、少しでも居心地のよいタナに着くようになります。当然、日によって着くタナが変わるだけでなく、水深がある釣り場では、時間帯によってもアタリが出るタナが違ってきます。そのタナを、サオの長さを変えて探り出し、そして集中攻撃するというのがこの釣りのポイント。バラケエサでへら鮒のタナを作り、落下する餌の粒子群の中にあるウドン系、感嘆などのくわせエサを食わせるわけです。

釣り方のポイントは...

活性が落ちたへら鮒は、釣り人の狙い通りのタナに集魚するのが難しくなります。ちょっとしたタナの違いでウキの動きはガラリと変わるので、へら鮒のタナに釣り方を合わせるのがコツ。しっかりしたアタリを出すにはハリスの長さも重要になってきますので、そのときの仕掛けからバラケエサの作り方と使い方、くわせエサなどについて解説します。

基本的なチョーチンのセット釣りの仕掛け

仕掛け

季節風の影響を考えると、仕掛けは全体的に細いものが有利。ただし、ウキは水深に見合った大きさのものを使用する。

サオ

8～13尺が一つの目安。水深のある釣り場では、15～19尺がよいときもある。

ハリ

上バリは、タナが3～4mならヤラスタイプの5号。それ以上深い場合は、6号を使用。下バリは、魚の活性に応じてくわせ用の2～3号を使い分ける。



ウキ

狙うタナ近くまでエサを早く落とすために、ある程度オモリ負荷量のあるものを使用。タナに応じたウキの基準（板オモリはすべて0.25ミリ厚で、幅約17ミリのものを使用）

水深	ボディ寸法	オモリの長さ
2～3m	10～12cm	約2cm
3～4m	13～15cm	約4cm
4～5m	15～18cm	約5cm
6m前後	18～20cm	約6cm

サワリが少なければ、1～2クラス小さめのものがよい。

道糸

0.6～0.8号を使用。一般的には太めのもので支障はないが、風が強いときは細いものを使うと流されにくくなる。

ハリス

上バリのハリスは太くても食いに影響しないので、0.4号を。下バリは0.3号を基準に、食いが渋ければ0.2号を使う。

状況別のハリス段差

状況	上	下
アタリが少ないとき	20～25cm	60～70cm
極めてアタリが少ないとき	15～20cm	70～80cm
寄りがよく、なじみが悪いとき	10～15cm	50～60cm
カラソンが多いとき	10～15cm	45～55cm

バラケエサの考え方

この釣りは、まずバラケエサを打ち、狙うタナにへら鮎を集めるところからスタートします。そのためには、集魚力があるバラケ性のよいエサが必要。膨らみながらサラサラとタテにバラケ続けるエサでへら鮎を刺激し、水中を落下する麩の粒子を追わせ、下にあるくわせエサに飛びつかせるのです。それでは、バラケエサのブレンドの一例を紹介しましょう。

「段差バラケ」2+「バラケマツハ」2+水1+「冬のバラケ」1.5



このエサは、全体をていねいにかき混ぜ、サラっとしたボソに仕上げてください。それを、人差し指の頭ほどの大きさにハリ付け。打ち始めは角ばらせてバラケ性をよくし、アタリが始めたら、ていねいに丸めます。このときのウキのなじみ幅は、3~4目盛り。タナが深い場合には、ボソのエサをハリにギゅっと押しつけるようにします。なじんだウキが上がりかけてからのアタリを狙うと、へら鮎を一定のタナに集めながら釣ることができます。

こんなときどうする!

食い渋り、カラツン、ウワズリ時などの状況別対応策

チョーチン釣りは釣るタナが深くなるので、タナまで持たせるバラケエサで、へら鮎をタナに集めるのが基本になります。その後、アタリが少なければ硬めのボソのバラケで、ウキをしっかりとなじませながら、じっくりと攻めます。反対に、カラツンが多いときには軟らかめのエサで、いったんウキをなじませてから、バラケを抜くといった対応になります。このようなバラケエサの調整には麩を足す、練り込むといった手直しも重要ですが、下の各特性をもったA~C群のエサをブレンドすることで、さらに釣況にマッチしたものを作ることができます。

A群 バラケ性のよいエサにしたいときは

冬のバラケ スーパーダンゴ

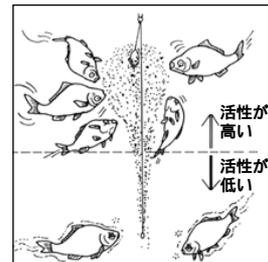
B群 ハリ持ちのよいエサにしたいときは

特S バラケバインダー

C群 重いエサにしたいときは

ダンゴの底釣り夏 へらスミー

水温が低い時期はへら鮎の動きが弱くなるので、水温や気温の変動、それに釣り場の混雑度により、バラケエサに近づく距離が変わってきます。日中の気温が高い日や釣り人が少ないという状況では、へら鮎は活性が鈍いながらも密度は増すため、バラケエサに接近。ですから、バラケエサは早く抜けるものにします。反対に、急激に冷え込んだときや休日の混雑時では密度が薄く、バラケエサから離れた位置に寄ります。このようなときには、持つバラケエサを使用。じわじわとバラケさせ、長くとったハリスにセットした下バリのくわせエサにアタらせませす(イラスト参照)。



短ザオのチョーチン釣りでアタリが少ないとき

「特S」1+「バラケマツハ」2+「スーパーダンゴ」1+水1

サラッとしたエサをギュッとハリ付け。トップ先端までしっかりなじませて、手返しよくエサ打ちします。

食い渋り時の持つバラケ

「へらスイミー」1+水1+「新B」2+「スーパーダンゴ」1

ボソエサなのでタナに到着してからじわじわとバラケ、へら鮎を寄せ続けます。いじらないで使うのがコツ。水を最後にいれると、しっとりとしたタッチに仕上がります。

早く抜きたいとき

「ダンゴの底釣り夏」1+「新B」2+「バラケマツハ」1+水1

しっとり気味のエサを、人差し指の頭ほどの大きさにハリ付け。バラケ性がよいわりにはウワズリが少なく、大型魚が多い釣り場にも適しています。

タナが深くて寄りが少ないとき

「スーパーダンゴ」2+「段差バラケ」2+水1+「バラケバインダー」2

硬めのボソを、芯が残るように手揉みして、大きめにハリ付け。タナに広がるバラケエサなので、素早くへら鮎を寄せられます。

タナが深いとき(19~21尺のチョーチン釣り)

「ダンゴの底釣り夏」0.5+「段差バラケ」2+「バラケマツハ」2+水1

ハリ付けのとき、数回手揉みしてください。人差し指の頭ほどの大きさでも、4~5目盛りなじむエサになります。トップの上がりが遅いときには手水を打って、やや軟らかめに手直しします。

上記のパターンにおいて、基本的にバラケを持たせる、早く抜かせるなどは、加える水の量で調整します。持たせたいときは水を少なめで硬めに仕上げ、早く抜かせたいときは水を多めに加え、軟らかく仕上げるのがコツです。

釣況に応じたくわせエサ選び

チョーチン釣りでは、釣況に応じたハリスの長さ、それに比重の異なるくわせエサを使い分けることがポイントになります。へら鮎の寄りがよいときには、重めのくわせエサでハリスを早く張り、食いの渋いときには、ハリ持ちのよいものや軽いエサが効果的となります。それでは、くわせエサの紹介をしてみましょう。



感嘆

硬い、軟らかいの調整が自在。釣り場で簡単に作れ、オカユポンプで使えます。ネバリとコシがしっかりしているのでダレがほとんどなく、長時間の使用にも安心。手軽さがウケている、くわせエサです。

¥300



特選わらび彩

軽くて吸い込みがよく、しかもハリ切れのよいわらびうどん。だから、昨今気になるくわせエサへのカラツンを極力防いでくれます。アタリが出たら確実に食わせたいときに使ううどんです。

¥400(3袋入り)



JP(ジエイビー)

ナベで作る、ポンプ出し専用のわらびうどん。軟らかく作っても、しっかりとハリに残る粘りの強さ。そして、経時変化が極めて少ないという特長を持ち、食い渋ったへら鮎に絶大な威力を発揮します。コシの強さは、天下一品。電子レンジでも作れます。

¥400(3袋入り)



わらびどん

しっかりハリに残るから、食い渋りの誘い釣りに効果があるわらびうどん。ウドン特有の重さでハリスを張らせ、食いアタリをオモリ、そしてウキへとダイレクトに伝えます。宙のセット釣りから段差の底釣りまで幅広くカバーします。

¥400(3袋入り)

つれるエサづくり一筋
丸マルキュー
<http://www.marukyu.com/>

本社・桶川工場 埼玉県桶川市赤堀2-4 〒363-8509
TEL:(048)728-0909(代) FAX:(048)728-3909
大阪支店 大阪府寝屋川市桶根南町12-14 〒572-0811
TEL:(072)824-0909(代) FAX:(072)825-0909

四国営業所 香川県坂出市西大浜北3-4-33 〒762-0053
TEL:(0877)44-0909(代) FAX:(0877)44-3909
九州営業所 佐賀県鳥栖市姫方町341-8 〒841-0023
TEL:(0942)82-0909(代) FAX:(0942)83-0909